

今年『見る』、『聞く』、『食べる』 地域づくり楽習会



地域の皆さんと一緒に楽しみながら地域づくりを学ぶ会です。今年、地域の小学生や高校生にも参加・協力してもらいながら、皆さんと一緒に地域づくりを考え、山北の魅力に触れてもらいたいと企画しました。
大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。

日時：平成26年3月16日（日）午後1時15分～
会場：さんぽく会館（村上市府屋）

≪第1部≫地域活性化講演会

地域づくりの「新たなヒント」

ありのままの農村生活に光を見出し、農村に多くの人々を招き、新たな活性化の波を起こした実体験を基にした先進地の事例をお話しいたします。

地域づくりの新たなヒントを見つけましょう。

≪テーマ≫：(仮)「やる気とやり方でまちは変わる」

≪講師≫：株式会社信州せいしゅん村代表

小林 一郎 氏

≪いっぷく≫

地域素材を活かした「さんぽくランチ」と「さんぽくごっつお」の試食・展示

さんぽく南小学校3年生が考案した「さんぽくランチ」とさんぽくごっつお物語協議会など地域の皆さんが作った「さんぽくごっつお」の試食・展示を行います。

山北の食の魅力をご堪能ください。

≪第2部≫地域の「魅力発信」

1. 「山北の昔話紙芝居」の上映

山北やまゆり・はまゆり学童保育所の子どもたちによる「山北の昔話紙芝居」を上映します。子どもたちがおじいちゃんやおばあちゃんから習った山北弁で語る昔話。山北の古くて新しい魅力に触れてください。



2. 村上桜ヶ丘高校写真部とのコラボ事業成果発表

村上桜ヶ丘高校写真部の皆さんが、山北の四季に併せて4回撮影活動を行いました。撮影した写真のパネル展示のほか、スライドで写真を紹介しながら山北の魅力を語ります。

学生から見た山北の魅力とは？



さんぽくまちづくり通信

第 8 号

発行 山北地区まちづくり協議会

発行日 平成26年（2014年）2月14日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 (住所) 〒959-3993 新潟県村上市府屋 232
(TEL) 0254-77-3111 (FAX) 0254-77-2217 (E-mail) s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp



旬の素材を使って作られる家庭料理は「ごっつお」となり来訪者に提供されます（スローフードフェスタ）



若い女性は「除草作業」を楽しむため来訪します



食べ物を作る体験は人気のメニューです

ありのままの日常生活…それは地域の宝

季節の節目や年中行事の際に作られる家庭料理やその料理に使われる食材、日課のように行っている畑仕事など、普段のありのままの日常生活が地域づくりの「資源（宝）」として活用されているのをご存知ですか。

山北地域でも食を始め、生業体験の受け入れを行っている組織などありますが、他の地域

では、お茶飲み友達が集まって作ったものを販売したり、体験の受け入れを行っているところもあります。来訪者との交流やふれあいが楽しみであったり、お小遣い程度の利益が生まれることが生きがいつくりにつながることもあるようです。友達と楽しみながら地域づくり。皆さんもいかがですか。

編集後記

山北地区まちづくり協議会も設立してからもう少して2年が経過しようとしています。少しずつですが集落の皆さんの実践活動のお手伝いができるようになってきたのかなあと感じています。

春は雪の下で眠っていた草花が力強く芽吹く季節です。まちづくり協議会の活動も、春の芽吹きと共に活発化し、皆さんにもっと関心をもってもらい、参画していただける協議会となるように頑張ります。



山北の元気を発信

地域を元気にしようと活動している個人や団体の魅力ある取り組みをご紹介します。

さんぽく青空レストラン さんぽく南小学校 3年生



さんぽく青空レストラン

「みんなのさんぽくランチを作ろう」をテーマに総合的な学習の時間で、5月から山北の様々な生業を体験している3年生。その体験を活かして11月10日の「さんぽく祭」では「さんぽく青空レストラン」を開設し、体験発表と3年生が作った「赤かぶ漬け」や「創作料理」を参加者に食してもらい山北の良さを自分たちの手で伝えました。

地域の食材を食すためには、それに携わる方々の力や豊かな四季が関係していることを子どもたちに体験して欲しいと思い「食」をテーマとしました。子どもたちにはこれからも地域で出会った方々とのつながりを大切に、故郷の良さを1つでも2つでも多く語れるような人に成長して欲しいと願っています。



大毎集落で山菜採り



さんぽく南小学校 3年生 担任 徳富 大吾 教諭

出羽街道に魅せられて



自作の演歌で街道をPR

俳聖松尾芭蕉が歩いたという「出羽街道」。中でも往時をしのぶ苔むす石畳や街道にまつわる伝説が残る大沢集落から漆山神社（明神様）までの峠が故郷にあることに感動し、この街道の観光案内人として15年になります。毎年訪れる人やインターネットで知り全国から訪れる旅人は年々多くなっています。地元の方やプロジェクトの皆さんと石畳の修復、街道沿いの看板設置や草刈を毎年行っているほか、個人的

には新潟市や東京でのイベントで街道の宣伝も行っています。芭蕉が歩いて325年、石畳修復5年目の節目の昨年は、「出羽街道石畳」という歌を製作しました。旅人とのふれあいを通して、出羽街道を一人でも多くの人に知ってもらいたいという思いが年々膨らんでいます。この魅力あふれる街道を守り紹介し続けることが地域の活性化につながると信じ、今後も活動していきたいと思っています。

北黒川 大滝 与志男 さん

には新潟市や東京でのイベントで街道の宣伝も行っています。芭蕉が歩いて325年、石畳修復5年目の節目の昨年は、「出羽街道石畳」という歌を製作しました。

旅人とのふれあいを通して、出羽街道を一人でも多くの人に知ってもらいたいという思いが年々膨らんでいます。この魅力あふれる街道を守り紹介し続けることが地域の活性化につながると信じ、今後も活動していきたいと思っています。



石畳補修プロジェクト

地域の魅力を発信し続ける若者たち 夢21・さんぽく塾



スノーマンがやってきた!

平成8年に発足した「夢21・さんぽく塾」は、現在25名で構成される「若者地域づくり団体」です。毎年2月に「スノーマンがやってきた!」のイベントの主催や他団体主催のイベント協力など、地域の魅力を活かした活動を若者ならではの柔軟な発想で取り組み、情報発信しています。

毎年2月に「スノーマンがやってきた!」のイベントの主催や他団体主催のイベント協力など、地域の魅力を活かした活動を若者ならではの柔軟な発想で取り組み、情報発信しています。

毎年2月に開催する「スノーマンがやってきた!」は、寒い冬でも会場の雪だるまのキャンドルで暖かな景色を楽しんでもらいたという思いで、2ヵ月前から手づくりで準備をしています。これからも地域の皆さんにご協力をいただきながら、生まれ育った山北の地域づくりと仲間づくりを行なっていきます。



笹川流れ海開き出店

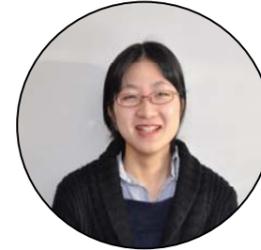


夢21・さんぽく塾 中村 悠久 さん 塾長

よろしくお願ひします

まちづくり協議会では、協議会の組織を将来的に自立して安定した運営ができるようにしていきたいということで12月から専従事務局員を雇用しました。

これから会議や事業など、さまざまな場面で一緒になることがあると思いますので、よろしくお願ひします。



事務局員の森山祐美子さん(府屋)です

一緒に活動しませんか
まちづくり協議会では、一緒に活動してくれる仲間を募集しています。
一人ひとりができることを、できる範囲でお手伝いしていただきたいと思っています。
山北地域を皆さんの力で元気にしていきましょう。
お問い合わせは山北支所自治振興室まで

イベント用品を貸し出します!

まちづくり協議会では、集落や集落公民館活動の充実と財政的な負担を減らすことを目的として下記のイベント用品を整備しました。

集落や集落公民館の事業など、地域の融和や活性化のために地域住民を対象として実施する事業に使用する場合は「無料」で貸し出します。

備品を使用する場合は事前に申請書の提出が必要になります。詳しくは山北支所自治振興室へお問合せください。

<貸出備品一覧表>

品名	性能等	数量
綿菓子機	1分間に1本程度	1
ポップコーン機	2分間で150g程度	1
かき氷機	家庭氷35個投入可能	1
たこ焼機	1回で20個	2
簡易テント	1.8m×3.6m	1
簡易テント	2.4m×3.6m	2
発電機	4.2h以上連続発電	1

【山北の暮らし⑤ 岩のり摘み】

冬の味覚の一つに寒鱈汁がありますが、そのおいしさをさらに引き立たせてくれるのが磯の香り豊かな「岩のり」です。

「岩のり」を汁の上に乗せるだけで寒鱈汁は至高の逸品となります。

山北地区では、古くからその村々の決められた口開け(解禁)以降に、限られた時化の合間に岩場において、ていねいに岩のり摘みを行ってきました。

特に、日本海が最も荒れる1~2月の一番寒い寒の内に手摘みで採ったものは「寒のり」と呼ばれ、香り・味・色あいが三拍子そろった最高品質とされ、贈答品や、保存食として重宝がられています。

岩のり摘みは、見るからに滑りやすい岩場での危険を伴う作業ですが、かじかむ指先で黙々と摘み続けられるのは、きっと「岩のり」を楽しみに待っている人たちの笑顔の心をカイロにして頑張っているのかなど、その根強さに感心させられます。

春は海からやってくるといわれますが、鉛色の冬空が続く厳寒の中で行う「岩のり摘み」の光景は、まさに春の訪れを予感させてくれる風物詩であり、後世に残すべき貴重な山北の宝物といえます。



岩場についた「のり」をていねいに集めます

《協議会の今後の活動予定》

- 3月10日 集落の元気づくり支援事業等助成金交付等審査会
 - 3月10日 第4回「役員会」
 - 4月3日 平成26年度「監査」
 - 4月10日 平成26年度「通常総会」
- ※日程等は変更になる場合があります。